

新型コロナウイルス感染症対策における、「児童のマスク着用の自由化」の要求書

市立 学校
校長殿
教頭殿

教職員の皆様方

私は、一日も早く子どもたちをマスクの強制着用から救いたいと願い活動している保護者です。

この度は、表題にもありますように『児童のマスク着用の自由化』について貴殿らと話し合いたく要求書を提出いたします。

マスクが、ウイルスを防ぐのに全く効果がなく、むしろ子供の健康、発育に害を齎すと言う医学的エビデンスやデータは多々あるので、文の後半にその医学的研究やデータの説明を記すと共に、その情報ソースのリンクも貼っておきますので、ぜひ目を通し、この様な事実を学校関係者や保護者にも周知させていただければと思います。

要求は以下の2点です。

- 1、授業中のマスク着用の、各保護者の判断による自由化を認めること
- 2、マスク未着用を選択した児童が不当な扱いを受けないための環境整備の徹底（マスクが感染を防がない・子供の発育、健康に有害だと言う医学的事実を文末の医学的データや専門家の意見を基に保護者や学校関係者に徹底した周知を行うなど）

文部科学省のガイドラインにより、児童に着用が推奨されているマスクによる身体の自由の制限は、もうすぐ1年になろうとしています。

現在に至るまでマスク着用の強要によって、低酸素や脳神経細胞への悪影響など子どもたちの健康が大いに危険にさらされ続けています。

マスクによるウイルス感染症を防ぐ効果は科学的に証明されておらず、厚生労働省ではマスクは風邪症状がある人が外出する際に着用することを推奨しているのみで、無症状の場合についてはマスクを推奨するような記述はありません。



また、マスク着用の強制は憲法の基本的人権（日本国憲法第11条、第97条）やその他刑法（強要罪、傷害罪、信用毀損罪など）の抵触にあたります。

以上の理由により、感染予防対策として効果が実証されていないばかりか、深刻な健康被害の危険性さえあるマスク着用の強制を見直し、自由化を求めます。

私たち保護者が、世間の同調圧力や科学的根拠のない感染症対策に振り回されることなく、大切な子どもたちの健康と未来を第一に考え、それらを守るための行動をとるべきだと考えます。

以下は、上で述べた様に、マスクの強制が子供達に如何に無意味で、子供達の発育に有害で危険かを裏付ける国内、国外の権威ある医学の専門家の意見と、医学的研究の資料やデータを記したものです。ぜひ、目を通して、保護者や教員、学校関係者に周知させて、マスク未着用を選択した児童が不当な扱いを受けないための環境整備に活用し、貴校が子供達をマスクの健康的被害から守るのに役立ててください。

まず、新型コロナウイルスによるまだ保育園や学校に通う年齢である0～18歳の死亡者数は、なんと“0人”（現在一人）です。新型コロナウイルスで重症化した人数もたった“1人”です！



しかし、国内や海外では、マスク着用による、重篤な事故や子供の死亡例も発生しております。↓↓↓は、そのほんの氷山の一角です。

【速報】持久走の後に小5男児が死亡“マスクを着けて授業に臨んでいた” 大阪・高槻市



デイリー・ミラー 紙:『26歳の男性は、フェイスマスクを着用して4キロジョギングした後、肺が虚脱する』



ニューヨーク・ポスト:『ニュージャージーの運転手は、N95のマスク着用によって気絶した後、車をクラッシュさせる。』



デイリーニューズ:『一週間の間に、2人の中国人の少年が、体育の授業でフェイスマスクを着用して、死亡する。』



では、最初に、国内の専門家が語るマスクの弊害について、2020年7月の介護ポストセブンの記事:『マスクで口呼吸の弊害』、免疫力低下、扁桃腺炎… 認知症を招く事も』から



内科医・東洋医学会漢方専門医・NPO 法人日本病巣疾患研究会副理事長のみらいクリニック院長・今井一彰(いまいかずあき)さん

「マスクをつけていると、鼻から呼吸がしづらく、無意識のうちに口呼吸になってしまいます。ほと

多くの人は意識をせずに呼吸をしていて、口でも鼻でも関係ないと思っているでしょう。しかし本来哺乳動物の体は、口ではなく鼻から息を吸って鼻から吐いて生活するようにつくられています。それに反して口呼吸を続けることで、全身にさまざまな弊害が起きる可能性がある」と述べます。

そして、東京有明医療大学学長・呼吸神経生理学専門の本間生夫さんは、『口呼吸は病気のリスクを上げる』と述べ、『口呼吸ばかりすれば、脳への刺激が減って嗅覚が衰えて脳機能に影響を及ぼし、認知症になりやすいといわれています。実際にアルツハイマー型認知症は、においがわからなくなるのが初期症状の1つです』と言います。

2020/10/3 の AERA の記事: : マスク生活で子どもたちに異変 「笑顔が減った」「反応が薄い」発育の懸念



『笑顔が減った、反応が薄い……。続くコロナ禍で、保育現場で子どもたちに異変が起こっている。』

『感染予防対策で大人たちが着けているマスクで、表情がわからないことが背景にある。』

『しぶいこどもクリニック(東京都大田区)の渋井展子(ひろこ)院長(昭和大学医学部小児科客員教授)は、乳児の発達には「周囲との交流が欠かせない」と解説し、『「子ども的人格の基礎を形成する重要な時期です。建築に例えれば、やり直しがきかない基礎工事に当たる」(渋井院長)』と言います

『赤ちゃんは親との信頼関係を結ぶことで、安心を深め共感能力を養い、対人関係の基礎を学んでいる。』

『その半面、乳児期に不満や不安な状態を泣いて知らせても対応してもらえず、愛着の絆が結べないと、脳幹での感覚が調節できない。』

『興奮を抑えることができなくなるため、不安感だけが発達してしまうという。』

更に、渋井院長は、

『5歳までに、特定の養育者との間にうまく信頼関係を築けないままだと、『愛着障害』になることがあり、自分の感情の調節が難しくなり、表情を読み取る能力が低くなって、喜びや恐怖といった感情への反応も薄くなる。心のよりどころとなる存在がないため、ストレスに耐える力が身につかない可能性がある』

と、この記事で述べております。

では、次は、マスクの弊害と効果のなさについての国外の医学的資料やデータを紹介します。

マサチューセッツ内科外科学会によって発行される、英語で書かれた査読制の医学雑誌で、継続して発行されている医学雑誌のうちで世界で最も長い歴史を誇り、また世界で最も広く読まれ、最もよく引用され、影響を与えている一般的な医学系定期刊行物である“**ニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディスン誌**”の記事:『Covid-19時代の病院におけるユニバーサル・マスクング』は、こう述べてます。



『“我々は、医療施設の外で マスクを着用しても感染からの保護は、ほとんどない事を理解している。”』

『公衆衛生当局は、Covid-19 への深刻な暴露を、症状が出ている Covid-19 の患者と 1.8m以内で、少なくとも数分間、対面接触する事と定義しています。(一部は、10~30分間と言っている)』

『従って公共の場での 通りすがりの交流で、コロナに罹る可能性は、最小限です。』

国立生物工学情報センター (NCBI) が運営する、生物医学・生命科学のオンライン論文アーカイブ:PMC(アーカイブ)の記事:



『フェイスマスクを付けた運動、我々は、悪魔の剣を扱ってるのか？生理学的仮説』では、以下の様に述べています。

『フェイスマスクを着けて、運動すると『利用可能な酸素が減少し、* ”エアートラッピング” が、増加し十分な二酸化炭素交換が妨げられる可能性があります。』

『高炭酸ガス血症の低酸素状態は、“酸性環境”、“心臓の過負荷”、“嫌気性代謝”、および “腎臓の過負荷” を増加させる可能性があります、既存の慢性疾患の根本的な病状を大幅に悪化させる可能性があります。』

『更に以前の考えに反して、運動中のフェイスマスクが、ウイルスの飛沫感染から更なる保護を提供すると主張する証拠は全く存在しません。』

医学・生物学分野の有名な学術文献の検索サイト PubMed(パブメド)の記事:

『日本の医療従事者の風邪の発生率を減らすためのサージカルフェイスマスクの使用:ランダム化比較試験 (* 2008 年に行われた日本での研究の結論)』でもマスクの危険性が述べられています。



『マスクのグループの被験者は、頭痛を経験する可能性が、著しく高かった。』

『医療従事者によるマスクの使用は、風邪や風邪の症状に対して、有益だと実証されていない。』

内科分野の研究記事や評論記事を掲載する米国内科学会によって発行される医学学術雑誌、**アナトミカル・オブ・インターナル・メディシン**誌の 2020 年に行った研究もマスクが何の効果ないと結論づけています。



『地域社会での、RCT(ランダム化比較試験)では、インフルエンザ、またはインフルエンザの様な疾患のリスクに対して、N95 マスクとサージカルマスクの間と、サージカルマスクとマスクなしの間にもおそらく違いがない事が分かった。』

こちらは、ドイツのヴァイツェン・ヘアデッケ大学の科学者たちが、子どもの「マスクの害」について大規模な調査を行ったものです。



この 2020 年 12 月 18 日に発表された論文によると、

『2020 年 10 月 26 日までに、合計 25,930 人の子どもに関する親たちから入力されたデータの結果を報告する。子どもたちのマスクの平均着用時間は 1 日あたり 270 分だった。』

『マスクの着用による障害は 68%の親から報告された。これらには、過敏性(60%)、頭痛(53%)、集中力の低下(50%)、幸福感の低下(49%)、学校/幼稚園へ行きたがらない(44%)、倦怠感(42%)、学習障害(38%)、眠気または倦怠感(37%)が含まれる。』

下に掲載されてるのは、論文にあった表を日本語に翻訳したもの

	総年齢層	年齢層 0-6歳	年齢層 7-12歳	13～18歳の年 年齢層
頭痛	13.811 (53.3%)	960 (24.0%)	7.863 (54.6%)	4.988 (66.4%)
集中力の低下	12.824 (49.5%)	961 (24.0%)	7.313 (50.8%)	4.550 (60.5%)
不快感	10.907 (42.1%)	1.040 (26.0%)	6.369 (44.2%)	3.498 (46.5%)
学習障害	9.845 (38.0%)	621 (15.5%)	5.604 (38.9%)	3.620 (48.2%)
眠気/倦怠感	9.460 (36.5%)	729 (18.2%)	5.163 (35.8%)	3.568 (47.5%)
マスクの下の締めり	9.232 (35.6%)	968 (24.2%)	5.427 (37.7%)	2.837 (37.7%)
息切れ感	7.700 (29.7%)	677 (16.9%)	4.440 (30.8%)	2.583 (34.4%)
めまい	6.848 (26.4%)	427 (10.7%)	3.814 (26.5%)	2.607 (34.7%)
ドライネック	5.883 (22.7%)	516 (12.9%)	3.313 (23.0%)	2.054 (27.3%)
失神	5.365 (20.7%)	410 (10.2%)	2.881 (20.0%)	2.074 (27.6%)
動きたくない、遊びたくな い	4.629 (17.9%)	456 (11.4%)	2.824 (19.6%)	1.349 (17.9%)

また、2020年7月5日に、発表されたWHO(世界保健機関)の正式な研究:『COVID-19の状況下でのマスクの使用に関するアドバイス』でも、(↓↓↓からダウンロード)



『現時点で、健康な人々によるマスクの広範な使用は、高品質、または直接的な科学的証拠によってまだサポートされておらず、考慮すべき潜在的な利点と“害”がある。』

と結論づけられています。

そして、この WHO の資料の 8 ページに、記載されている“マスクの潜在的な害と不利益 (Potential harms/disadvantages)”：一般大衆の健康な人々によるマスクの使用で、起こりうる不利益に含まれるものには、以下の様に書かれています。

- ・フェイスマスクをいじくると、その後の、汚れた手で目を触ったりする事により、
- ・自己汚染のリスクが高まる可能性がある。
- ・非医療用マスクが、濡れているか汚れている時に交換しない場合、潜在的な自己汚染が発生する可能性がある。
- ・雑菌が増殖するための好ましい条件を作り出すのを可能にする
- ・使用するマスクの種類によって、頭痛、または呼吸困難が起こる可能性がある。
- ・長時間頻繁に使用すると、顔の “皮膚病変”、“接触性皮膚炎”、または、ニキビの悪化の可能性がある
- ・使用するマスクの種類によって、頭痛、または呼吸困難が起こる可能性がある。
- ・明確にコミュニケーションを取るのが難しくなる。・認知障害のある高齢者、喘息または慢性の呼吸器疾患、呼吸困難などがある方、顔面外傷、または最近、口腔顎顔面外科手術を受けた人、および高温多湿の環境に住んでいる人達には、マスクの着用に困難、もしくは不利益が生じる。

そして、神経学、神経再生、神経可塑性、神経毒性学、環境医学、疼痛管理を専門とするヨーロッパ有数の神経内科医のコンサルタントで、欧州神経学会連合、米国神経学会、欧州環境医学アカデミーの会員。米国で継続的に法医学の専門家を務めている マーガレット・グリーズブリッソン博士は、

World-renowned neurologist
Margareta Griesz-Brissou warns:
Masks cause OXYGEN DEPRIVATION and
PERMANENT NEUROLOGICAL DAMAGE,
ESPECIALLY IN THE DEVELOPING
BRAINS OF CHILDREN.



2020年10月に、自身の投稿で、『酸素欠乏は永久的な神経障害を引き起こす』、『酸素欠乏は脳の発達を阻害』とまで警告しています。

(原文) ↓ ↓ ↓



(翻訳版)

以下は、彼女の投稿です。

『吐いた空気を再吸入すれば、間違いなく酸素不足と二酸化炭素の洪水が発生します。私たちは、人間の脳が酸素不足に非常に敏感であることを知っています。例えば海馬には、酸素がないと3分以上も生きられない神経細胞があります。』

『急性の警告症状としては、頭痛、眠気、めまい、集中力の低下、反応時間の低下、認知システムの反応などがあります。』

『しかし、慢性的な酸素欠乏になると、それらの症状はすべて消えてしまいます。しかし、あなたの効率は損なわれたままで、脳内の酸素不足は進行し続けます。』

『神経変性疾患は、発症するまでに数年から数十年かかることがわかっています。今日、あなたが電話番号を忘れたとしても、脳の故障は 20 年前、30 年前にすでに始まっているはずです。』

『マスクをつけて自分の吐く空気を再呼吸することに慣れてきたと思っている間に、酸素不足が続くと脳内の変性プロセスが増幅されていく』

『第二の問題は、脳内の神経細胞が正常に分裂できないことです。ですから、仮に政府がマスクを外して、数ヶ月後に自由に酸素を吸えるようになったとしても、失われた神経細胞はもう再生されません。消えたものは消えてしまう。』

『子供や思春期の子供にとって、マスクは絶対に禁物です。子供や思春期の子供たちは、非常に活発で適応性の高い免疫システムを持っており、地球の微生物との絶え間ない相互作用を必要としています。彼らの脳もまた、学ぶべきことがたくさんあるため、信じられないほど活発に活動しています。子供の脳、つまり若者の脳は酸素を渴望しています。新陳代謝が活発な器官であればあるほど、より多くの酸素を必要とします。子供や青年では、すべての臓器が代謝的に活動的です。』

『子供や思春期の脳から酸素を奪ったり、何らかの方法で制限したりすることは、健康を害するだけでなく、絶対に犯罪です。酸素欠乏は脳の発達を阻害し、その結果として生じたダメージは元に戻すことができません。』

※マスクの弊害について、警告している他の海外の有名な医師や専門家

動画(3:23~4:03) → → →



Talkers Magazine によってアメリカで最も影響力のある 250 のラジオパーソナリティの一人に選ばれた家庭医療の専門家 Daliah Wachs 医師

『マスク着用によって鼻呼吸からより口呼吸になる』

医療分野で 20 年以上の経験がある集中治療医学の専門家 Adrian Divittorio 医師

『暑さに湿気とソーシャルディスタンスや隔離による何カ月もの運動不足に加え、更にマスクを着用すれば、確実に呼吸困難になり、更なる呼吸器合併症に繋がる。』

27 年間、医療従事者に個人防護具のトレーニングを行ってきた個人防護具専門家 (PPE Expert) クリス・シェイファー氏



『マスクは、新型コロナウイルスを全く防がないどころか、危険』

しかも、先進国ドイツのワイマールの裁判所では、子供達の発育に危険だと理由で、ワイマールの 2つの学校が生徒にあらゆる種類の口と鼻の覆い(マスク)を即刻禁止するという判決まで下しました！

『ワイマールのセンセーショナルな裁判所判決』↓↓↓



2021 年 4 月 8 日、ワイマール家庭裁判所は略式手続き (Ref.9 F 148/21)において、ワイマールの 2つの学校が生徒にあらゆる種類の口と鼻の覆い(特に FFP2 マスクのような適格マスク)の着用を要求すること、AHA の最低距離要件を遵守すること、および／または SARS-CoV-2 迅速検査に参加することを即刻禁止するという判決を下した。

ワイマール家庭裁判所は、事実上および法律上の状況を検討し、専門家の意見を評価した結果、(現在は禁止されている措置が)子どもの精神的、肉体的、または心理的な幸福に対する現在の危険を示しており、介入せず継続した場合、かなりの損害が高度な確実性をもって予想されるという結論に達した。

裁判官はこう述べている。「このような危険が今ここにある。学校の授業時間中にマスクを着用し、お互いに他の人から距離を置かなければならないという義務によって、子どもたちが精神的、肉体的、心理的に危険にさらされているだけでなく、すでに被害を受けている。同時に、法律や憲法、国際条約に基づく子どもたちとその親の数多くの権利を侵害している。特に、基本法第 2 条の人格の自由な発達と身体的完全性に対する権

利、および基本法第 6 条の両親による養育とケアに対する権利（健康管理のための措置や子どもが携帯する「物」についても）に適用される。…」

この判決で、裁判官は母親の見方を認めた。「子どもたちは身体的、心理的、教育的にダメージを受けており、子どもたち自身や第三者にとって何の利益もなく、その権利が侵害されている。」

5.結果

裁判官は、決定を次のように要約しました：

『「学校の子供たちにマスクを着用し、お互いや第三者からの距離を保つように強制することは、子供たちや第三者に、せいぜいわずかな利益を与える

以上の事はせず、子供たちの身体的、心理的、教育的、そして心理社会的発達を害し、釣り合いが取れません。』

更に、追い打ちを掛ける様に、アメリカの各州の対策を比較する事によって、マスクの着用の強要や他のコロナ対策は、感染拡大を防ぐのに、全く効果がない事が証明されました。

MailOnline 紙 (dailymail.co.uk) <現在、世界で最も訪問されている英語の新聞の Web サイト>
2021 年 5 月 4 日

『完全に、経済活動を再開している（時短営業、マスク着用の義務なしの）テキサス州とフロリダ州は、マスク着用の義務やその他の COVID-19 関連制限措置がまだ実施されているミシガン州、ペンシルベニア州、ニューヨーク州よりも 1 人あたりの新規症例数が少ないと報告される。』



・CDC(アメリカ疾病管理センター)のデータによると、完全に再開したテキサスやフロリダなどの州では、ミシガン、ペンシルベニア、ニューヨークよりも少ない症例が報告されている。

・ペンシルベニア州、ニューヨーク州、ミシガン州はすべて COVID-19 対策の為、マスク着用義務を実施しています。

・ミシガン州は過去 7 日間では、100,000 人あたり 390.2 件の新型コロナウイルスが報告された。

・ペンシルベニア州当局は、過去 7 日間で 100,000 人あたり 221.4 件の症例が報告された。

・ニューヨーク市だけでも、過去 7 日間で 10 万人あたり 206.1 件の症例が記録されている。

・テキサス州の保健当局は過去 7 日間で 10 万人あたり 70.4 例を報告した

・フロリダ州は先週 10 万人あたり 186.8 例を記録した。

しかも、これは、決して、フロリダ州とテキサス州のワクチン接種率が他の州より高いからではない。2021 年 5 月 3 日時点での接種率は、この通り…

ワクチン接種率

テキサス州	36 位	76.27%
フロリダ州	39 位	74.16%
ミシガン州	33 位	76.65%
ニューヨーク州	13 位	84%
カルフォルニア州	28 位	78.69%

もちろん、テキサス州、フロリダ州では、学校で児童にマスクを強要していません！

この 5 月 3 日までのワクチン接種率のデータは、下の QR コードのリンクに保存してあります

↓↓↓



また、最近では、海外の大手メディアも長時間のマスクの着用が子供に齎す弊害について、大々的に報じる様になりました。

イギリスの大手新聞紙 デイリー・テレグラフ紙

『授業でのフェイスマスクは、子供たちに「身体的危害」をもたらしている。』



ワシントン D.C.で 1994 年から発刊しているアメリカ合衆国の政治専門紙:ザ・ヒル紙

『すべての子供へのマスク着用は必要ではなく、倫理的でもない』



これだけのデータや、権威ある医学的な資料や医療の専門家が、マスクの着用はウイルスを全く防がず、子供の健康、発育に有害だと裏付けていて、しかも海外、国内でもマスクの着用による重病例や死亡例が出ている中、長時間のマスクを子供に強要した結果、もし子供に何かあった時に教職員の方々は、責任を取れるのでしょうか？

海外では既に、マスクは感染症を防がない事実が当たり前になり、子供はもちろんの事、人々の脱マスク化は当たり前になっております。



また、2021年3月には、アイルランド政府は、**アイルランド保健局のマスクに関する正式な調査の結果**、教室で子供たちにマスクをさせるのは、医療上の予防措置ではなく児童虐待で“マスクは、不安や呼吸困難を悪化させる”“特に幼い子供のコミュニケーション能力や言語能力の発達を損なう”事が結論づけられ、



『アイルランド政府は、マスクは児童虐待でメリットがないと結論付け、学校でのマスク着用義務を拒否した』事が米国の大手 FOX ニュースでも報道されました。



ぜひ、このような事実を学校内で広く共有し、授業中のマスク着用の、各保護者の判断による自由化を認め、マスク未着用を選択した児童が不当な扱いを受けないための環境整備を徹底させて下さい。宜しくお願い致します。

令和〇年〇月〇日